

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人瑞祥 グループホームオレンジ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	愛知県 知多郡 美浜町
記入者名 (管理者)	渡邊 多恵子
記入日	平成 19 年 12 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・利用者の方が、心身共に、健やかに過ごしていける様に、又一つのコミュニティとして地域社会とのつながりを大切に生活を送っていける様に理念を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・管理者と、職員とで掲げた理念である為、皆が利用者に対して同様に日常的に実践されている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・家族や地域に対しては、事業所の理念を分かりやすく説明したり、又そこで出た話を活かせるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・地域のお年寄りが収穫された野菜をもってみえたり、利用者、職員と顔見知りの方が遊びに来られたりしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の活動には、昔から馴染みのある方であったり、地域の特性を活かした行事をとり入れるなど、地元の人々と交流できるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		・グループホームだけでというものは今現在行われていない。しかし、婦人会、老人会などにも視野に入れ、勉強会や訪問するなど今後取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	○	・地域密着型サービスとなり、まだまだ地域にはグループホームとはどういう所か知られていないかと思われる。その為、自らも地域に開けた事業所作りを行っていくことや、市町村の担当者にも良く知ってもらい、共に共存していければと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	○	・研修などを通じて、勉強会のテーマとして行ったことはあるが、難しい制度でもあり、また今までも前例がないため、今後勉強会などで学ぶ機会を増やしていくことが必要かと思われる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・事業所内・外で行われる勉強会への参加であったり、上司の意見、外部の研修に参加するなど、働きながら学習できる環境づくりをしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・連絡協議会に参加しそこでの交流を保ち、同業者だからの共通の問題であったり、新たな意見に対してどういう風に対処していくのかなど意見交換の場として活用し、それを事業所で活かせるように取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・他施設で多くの職員との話し合いの機会が持てたり、困っていることはすぐに解決してもらええるよう話し合いの場を多く作ったり、親睦会、職員旅行など各種の行事などにてストレスが軽減できるように配慮している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・運営者は現場で起きている状況、職員の成果、実績などを把握し、相談であったり、評価をし個々に合わせた対応をとっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・新規等の利用であれば、何かと不安なことがあると思うので、気軽に立ち寄ってもらい施設見学をしてもらうことや、その方の話しを聞き解決していけるように支援しているようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・本人と同様、見学や電話での対応にて共に解決していけるように支援していきます。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談者の方が何を伝えたいのか、又言葉の裏に言いにくいようなことが隠れていないかなど、総合的に今必要なサービスが提供出来るようにしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・両者が共に納得した上でサービスを開始する為、契約の際ご不明な点などがあれば、まず先に解決してもらっている。又、場に馴染んでいけるように本人、家族と考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・以前の生活歴をふまえ、入居者の方がもっている知識などを活かし、学ぶ場を築いたりその方の得意とすることを皆と一緒に支えあっている。 ・ホームでの生活は家庭での生活と一緒にある為、入居者・職員が共に日々成長している場となっている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・入居者の方が過ごしていきやすいよう本人、家族などから情報交換を行い、皆で共に支えていけるようにしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・少しでも多くの方が面会など足を運んで頂けるよう、開放的で温かい雰囲気作りを目指している。又、必要時は手紙、電話連絡をさせてもらっている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・計画を立てた上で、入居前の住まれていた地区に出掛けることにより、馴染みの人、場所に会える機会を設けている。又、他の方も共に行くことによりその場所で新たに地域、住民との交流が保てるようにしている。例えば地区内に墓石がある方に対しては、今までの様に定期的に行くことを支援している。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・集団生活の場でもある為、その方が出来ることを皆と分担などして行うようにしている。又、入居者同士の際は職員が仲立ちをとるなどさりげなく援助し、孤立しないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>・同一敷地内に施設等がある為、そこでの相談窓口などを利用して頂いたり、契約等に関係なくご不明な点や相談などがあればいつでも支援できるようにしている。</p>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・入居者・及び家族から聞き取りアセスメントなどを行なう事によってその方の課題やニーズを明らかにしており、そこで課題となったものを介護計画などを通して改善していけるようにしている。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>・入居者それぞれ、生活歴、生活習慣などが異なる為希望などの要望を聞き入れ、意向に添えるように努めている。又、家族の協力も必要不可欠であるため、連絡を取っている。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>・日課計画書をもとに、主な日常生活上の活動を援助し継続して行っていくことができるようにしている。又、その日によって状態などが変化する為、無理な強制など本人にとって不快にならないようにしている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・アセスメントを行い、適した計画を立てる様に努めている。又、多くの職員の意見を反映させることにより、決して作成者のみで計画を立てないようにしている。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・介護保険証の期間に応じて作成し、予測できないケースが起きた際には、その日の内に会議を開き、新たな計画を作成している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・健康状態については、血圧、体温、体重等がすぐに分かるようにグラフ化にもしている。 ・日頃の様子などはケース記録に記載し、又申し送りノート、会議、家族からの要望などを反映させた介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・併設である為、ボランティア、慰問、行事などにも事前に確認の上、参加させてもらうなど、ホーム内のみでなく、施設の行事ごとにも参加させてもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・防災訓練では、消防署に協力してもらい、併設の特別養護老人ホームと共に行っている。又、民生委員の方には運営推進会議を通じて協力してもらっている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・現在他の介護サービスは受けていない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括支援センターの職員とは運営推進会議などで、情報交換などをさせてもらっている。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・隣接された病院と連携を持ち、又地域の診療所の紹介、希望のかかりつけ医があればそちらで適切な医療を受けられるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>・重度化加算、看取り加算は届け出をしていない為実施していない。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>・個人情報もあるので同意のもと必要な情報交換を行い、住み替えによる精神不安定、活動の低下などの支障を防いでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員は入居者を尊重した言葉遣いや態度をさりげなく日常生活の中で取り入れていけるよう心がけている。本人の生活リズムにあわせたゆったりとした雰囲気や大切に、入居者の方と接するように心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・本人の話や希望を尊重し、自己決定はあくまで本人に決めてもらう。判断に迷ったり、自分で決められないような時は職員も一緒になり考え、その時間を大切にしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日課となる生活の流れはあるも、その日によって過ごし方は変わる為それに応じた対応をしている。 ・一日の生活を決めかねている人には職員が促し、家族の一員として皆と協力して行える様にして援助している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・衣類は全て本人持ちであり、季節ごとや行事、外出時などにおしゃれをすることを楽しみにしている。又月1回併設の特養に地域の美容師さんに来て頂いたり、行きつけの理髪店、美容院がある方は積極的に外出を勧めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しみながら食べている。又、食事が進まない方にはさりげなく声掛けしている。 ・ホームで採れた野菜など身近で関わりのある食材を使うことにより、食欲増進にもなっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・希望ある方は医師の制限などがなければ買出しの時などの外出の際に購入してもらっている。又制限等がある方であっても制限の範囲内、心身状況に応じて職員が援助している。 ・今現在は飲酒のみの希望者のみであり、喫煙者はいない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・各居室にトイレがある。それぞれの排泄リズムを尊重した上でさりげなく声掛けをして排泄を促したり、トイレ後も気にならない程度に確認している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・時間帯（9時～18時）であればいつでも入浴可能ではあるが、事前に入浴される時間などを利用者に向っている。又、同姓介助であったり、個別に利用してもらうなどの支援をしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・入居者の方々に安心して生活して頂ける様のその状況に合わせ、休息を促したり夜間は巡回をこまめに行うことにより対応に応じている。 ・温度調整をしたり、夜間寝れないような方がいれば、話相手になったり、足浴をしたりと安眠を促している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・畑仕事が好きの方、料理の好きな方、外出などが好きな方等々、それぞれの好みに合った対応をしている。 ・生活の中で負担にならない程度に役割を決め、その方の長所を活かすように取り組んでいる。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物の際には本人にお金で支払ってもらう。お金が上手に取り出せない方や、耳が遠くていくらかわからなかった方に対しては職員が全て行うのではなく、さりげなく一部介助をする事で出来る限りその方に使ってもらうようにする。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・事前に毎週買出しの日を決めており、又希望があれば近くの商店などに付き添い出掛けられるようにしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・事前に要望があれば一度職員が足を運び、トイレ（障害者用など）が近くに管理されているか、交通量など安全面の確認など必要なことを確認した上で本人と共に外出の機会を考え、家族、職員で出掛けられる計画を考えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話の際は個人情報に配慮した上でうまくボタンが押せない方もいる為、職員が代行し必要最低限の援助に努めたり、手紙など字が書けなくならないように日頃から書道クラブなど字を書く習慣を設けている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・いつでも気軽に来て頂ける様、手紙で事前に行事などの日程を家族に連絡したり、又家庭的な明るい雰囲気を作っていくことにより、どなたでも足を運んでもらえる様にしている。又、面会時間という決められた時間はあるものの家族の方の都合もある為、いつでも来てもらっていいようにと伝えてもいる		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をはじめ、1人1人の尊厳や尊重を大切にケアにあたっている。また、身体拘束廃止マニュアルなどを活用している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・施設の方針もあり、玄関は自動ドアだが内から外へはリモコンを使わなければ開かない。これは入居者が1人で外出し、転倒などによる事故を防止する為であり、家族の方にも理解、安心をして頂いている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・日中、夜間問わず入居者の方の所在確認、状態観察を職員間で連携して情報を共有している。又日中の様子を夜勤者に伝達、申し送りノートなどにて連絡をとっている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・生活上の物品は、職員がいる際は自由に使ってもらえる様にしている。又、不在の際は手が届かない所に保管したり、視界に入らないように暖簾・カーテンなどで覆ったり、電源を抜いたり怪我や火傷、転落などの事故にならないようにしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・事故防止マニュアルのもと防止に努めている。又、ヒヤリハットを活用し、職員全員で検討し、事故の再発防止に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接している病院と連携を密にしている。 ・定期的に緊急時の対応など隣接の病院、施設の看護師に依頼し、勉強会の機会を設けている。 		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回併設の特別養護老人ホームと共に避難訓練を行っている。 ・万が一の非常時の為に、非常食、防寒具などを倉庫に保管し、全ての職員が保管場所を知っているようにしている。 		
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族には面会時や電話連絡にて随時入居者の方の状態を説明、助言などさせてもらっている。 ・入居者の方が生活に圧迫感を感じず、充実した生活を送れるように支援する反面、それに対してのリスクも家族と共に対応を考えていく。 		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接している病院と連携を密にしている。 ・毎日のバイタルチェックを行い、個々の状態に合わせて正常値であるか確認し早期発見に努め、又それをグラフ化することにより、急激な変動がないかなど確認している。 		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・使用している薬の用量、用法やその薬の副作用などをしっかりと理解する為にファイルに一覧できるように保管している。 ・服薬の際には飲み忘れなどが無いか、口腔内を確認したり、飲み忘れが無いかなど確認している。 		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・便秘予防の為に、こまめな水分補給を促し、食後（特に朝食後）の排泄を促したり、ラジオ体操や便秘予防体操、散歩など適度な運動を取り入れている。 		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔内も健康管理の一つとして、個々に合わせて毎食後促し、磨き残しなどで介助が必要な方には部分介助を行っている。また、就寝前には義歯の洗浄を行っている。そして行ったことに対しては各個人ファイルに記入している。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個々の方に合った食事量や、又食事の時だけではなく、1日を通して水分量・栄養バランスが摂れる様、その方に合わせ、小分けにする、好きなおかずを一品加える、定期的に水分摂取を促すなどしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・毎年1回(11月～12月)にインフルエンザ予防接種をお願いしている。又、感染症対策マニュアルを作成し、実行している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食器・調理器具は夕食後に除菌し、食器乾燥機で乾燥させている。 ・食材も、賞味期限に注意し、鮮度を保てるようにそれぞれ合わせ、保管してる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関付近は交通量も少なく、散歩などの際には散歩しやすい。又、畑にて作物や玄関先にてガーデニングを行っている為、家族や散歩されている方の視線にもはいいり、好評である。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・生活感や季節感を取り入れる様にしている。例えば、その時期に畑で収穫した野菜を食卓に並べたり、秋の時には毬栗などを使って工作をしたり、栗きんとんを作ったりしている。また随時、入居者の方が作成した物や、カレンダーを飾って温かい雰囲気作りをしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用スペースでの食事の際はテーブル席を決めている。又ゆったりと過ごしてもらえれる様に、ソファやマッサージチェアを置いて、どなたでもいつでも使ってもらえれる様に開放している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人、家族のご協力のもと使い慣れた物を持参して頂いたり、他の居室と間違われてしまう方もいる為、他の居室と区別がしやすいよう、居室の前に目印になる物を置いたり、ドアノブに飾りをつけたりと分かりやすいようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・冷、暖房機設備されているが、外気温と大きな温度差にならない様に、定期的に換気や、消臭を行っている。又、個人の部屋はその方に合わせた温度設定にしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内はフラットであり、大きな段差がない。浴槽内は手すりなどを完備している。又、併設された施設の手すりを使い、職員の付き添いにて散歩や歩くりハビリをしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・入居者の方に自らのペースでやって頂ければ、失敗や間違えたことに対して、フォローアップしていき極力自分で行ってもらえる様にしている。又、状況に合わせた環境設備を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・畑や花壇の手入れ、水やりなどを行い、日課の中で楽しんで頂けるようにしている。 ・近くに神社があるので、お参りや散歩に出掛けている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)